

## 報恩講とは、一言

ば、親鸞さまのご法事のことです。真宗の最重要行事であり、七〇〇年以上にわたり大切にされ、伝えられてきました。しかし、核家族化のせいでしょうか、ご両親はあんなに大事にされていたのに、次の世代になると全くご存じないという方が急増はじめています。初めて耳にされた方も、どうか「温故知新（古きを温ねて新しきを知る）」の精神で、先達やご先祖が大切に伝えてこられた意味を学んで下さいませようお願いします。

また長い年月の間に、僧侶・門徒ともに報恩講の精神の原点を見失い、慣習化し、形骸化してしまったことも事実です。そこで、私達僧侶も、ベテランのご門徒の皆さんも、あらためて原点に立ち返り、その精神に触れるご縁となればと思います。そして、それを確かに、後にも伝えてゆくご縁となることを願っております。

## はじめての人の ベテランの人の 報恩講ガイド



### 都合が悪い方

仕事などで都合がつかない方は、別の日時にお参りさせていただいています。ご遠慮なくご一報下さい。また逆に、その時間に合わせて帰宅するので、コース表通りの時間であれば困ると言う方も、ご遠慮なくお寺までお申し出下さい。

### ご理解とご協力を

「順番は分かるが、大体の時間が分からないものか」という声にお応えして、「朝八時から始まって一軒三〇分を目安に廻ります」とお知らせしました。すると今度は「もう来たのか」とか「まだ来ない」ということになって、逆に混乱の原因にもなっていました。急な変更が重なったり、ご門徒が亡くなられたりすると、すぐに一〜二時間は前後してしまいます。どうか前後一〜二時間までにご容赦下さいますようお願いいたします。



報恩講は三つある

まず、各ご家庭でつとめる「通り報恩講」。西教寺では、例年十月一日よりはじまります。お寺の近くは、コースを組んで一軒三〇分の目安でまわり、ほとんどのご門徒がつとめられます。遠隔地の方は、日程を相談してお参りさせて頂いています。

次に、お寺での「お取り越し報恩講法座」。一月十六日のご命日を年内に取り越してつとめます。ご門徒の皆さん、ご多用とは存じますが、年に一度はお寺で聞法いたしまししょう。

- 長ノ木本坊 12月13日〜16日
- 蔵本通支坊 11月25日〜28日
- 三津田支坊 11月19日〜21日

そして最期に、一月十六の親鸞さまのご命日に、ご本山（西本願寺）では「正当（御正忌）報恩講」がつとまります（九日〜十六日）。ご門徒なら、一生に一度はは本山にお参りしたいものです。しかし、本山へ参詣できない人のために、ご法義の厚い（信仰の盛んな）安芸地方では、各寺院でもご正当の法座を行っております。

報恩講の心構え

それでは、どのような心構えで報恩講をお迎えすればよいのでしょうか。

お釈迦さまが説かれた仏法、親鸞さまのお示し下さった信心とは、今生ただ今のところで、さまざまな人生苦を超えてゆく教えです。信心とは、この世の生活とは関係ない、死後のお浄土へお参りをするための切符ではありません。その意味で、今までの形ばかりの報恩講から、仏法の精神が生きづいてい

る報恩講へ、つまり、私達の苦しみ多き人生から、今までは違った新しい人生への「気づき」「めざめ」そして「出会い」の場・時間となるよう、僧侶・門徒の力を合わせてゆければと思います。真宗のご縁はあるんだけど、まだあまり関心が無い、お寺に足が向かない人、心に安らぎがえられない人について、蓮如さんは、

未安心の行者にいたりては(略) この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば、**眞実眞実、聖人（親鸞）**報謝の懇志にあひかなふべきものなり。

『御俗姓』『浄土真宗聖典註釈版』123頁と、納得するまで仏法を聞き、まことの智慧をたまわって、今までと違う人生が開けるならば、それが本当の意味で親鸞さまのご恩、ご苦勞に報いること（報恩）になります、そしてご

法礼も、本当に意味のあるものになることでしょう、といわれています。

一方、すでに心豊かに日々を送れるようになった人は、お育てに感謝して、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穩になるよう、できることをご報謝いたしましょう。何はともあれ、どうぞご家族ご友人など、一人でも多くの方を誘ってご縁におあい下さい。

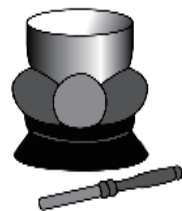
報恩講の準備

報恩講は、年に一度、お仏壇の大掃除をする日です。報恩講当日は、仏壇お扉の布力バーは、はずしておいてください。

おみがき（お掃除）

めっきしていないしんちゅ

う製の輪燈・おリン・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きまします。家族みんなでおみがきしましょう。



おかがり

お花

まごころをお供えるのですから、造花はご法度です。



ローソク

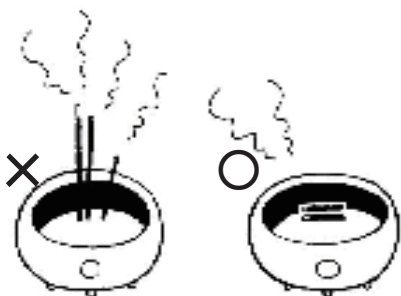
普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光りをとしましょう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱口ウ（赤いローソク）で。

マッチと灰皿をお忘れなく。



〈お香〉

できるだけ良い香りのものにしませう。香炉は灰をならしておきませう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるものです。



線香は立てずにねかせます

〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。

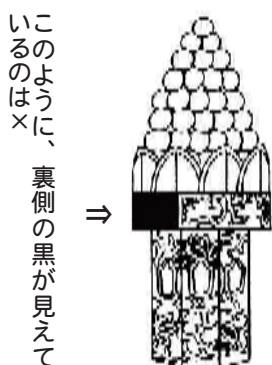


〈お供え物〉

日常つねにお供えするものはお仏飯だけです（仏さまには水・お茶・コーヒー・お酒・たばこ等は供えません）。また、頂き物をまず仏さまにお供えするうるわしい習慣を大切にしましょう。



報恩講などの法要仏事の際は、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供えする順番は①「餅」②「菓子」③「果物」の順です。また、お供えは、供筒（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金濃（金色）、残りの三方向が黒の供筒は、金が正面に来るよう（黒が見えないように）します。



このように、裏側の黒が見えているのはX

御 文 章

「出し忘れ」をしたり、向きが「上下逆」になっているのが御文章。お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。



ちなみにお花、仏具、法事の「お仏前」なども含めて、お供え物は皆同様の方向にを向けるのが作法です。お供えは私の手柄ではなく、「おかげさまで」という心を表しているそうです。

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹香を忘れずに。



お念珠・お経の本

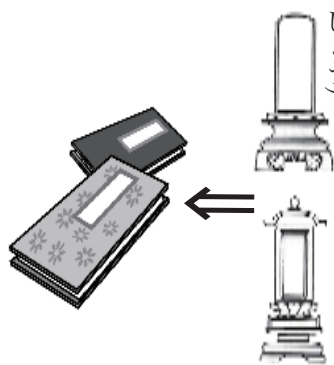
お念珠、お経の本を忘れずに。また、これらは直接地べたに置きません。

おつとめ

お経はいっしょについてあげます。老眼鏡を忘れずに。数年前から、お正信傷も少しはゆつくりになったと思いますので、できるだけ多く方を誘ってご縁にお会い下さい。

真宗には必要ないもの

・お位牌（過去帳に書き換えましょう）



X 神棚・お札・お守り 破魔矢・他宗の本尊

心を育てる場

—お仏壇—

「お仏壇はお願い事をする場ではない。」どこかで聞かれたことがあると思います。でも、どうして神さまのようにお願いをしないのでしょうか。

普通、私の都合の良いように人生が好転すると、「ああよかった、救われた」と言います。でも、よく考えると、どれだけお願いしても、結局年を取り、あちこち病気になる、順番なく死んでいかねばなりません。仏さまは、「人生都合のよいことばかりではないぞ、私がついているから、都合の悪いことにもちゃんと向き合い、よく乗り越えてゆくことのできる人間になりなさい」と教えて下さっているのです。お仏壇は、足取りのおぼつかない私たちの人生、心を、毎日の生活習慣を通して育てる場、人生の真実を学ぶ場として、先祖代々大切にしてくださいました。